

情報システム学会 会員アンケート集計結果

2006年3月10日 情報システム学会

情報システム学会は昨年4月にスタートして以来、早や1年が過ぎようとしています。

そこで、情報システム学会をより充実していくために、学会活動のこれまでの評価、と今後のご要望について、会員の皆様の忌憚のないご意見を伺いたいと思います。よろしくご意見申し上げます。

問1 あなたの会員番号とお名前をお知らせください。

20歳代 1

30歳代 8

40歳代 18

50歳代 12

60歳以上 14

問2 あなたのお仕事を次に中から選択してください。

ベンダー(受注)側 18

ユーザー(発注)側 7

情報システム利用者 7

その他, 教員, 学生など具体的にご記入ください。 22

教員10、コンサルタント3、IT 監査、金融、自営、マーケティングプランナー
シンクタンク、農業、その他

問3 あなたが情報システム学会以外に入会されている学会があればお知らせください。

情報処理学会 14

経営情報学会 14

電子情報通信学会 4

OR 学会 2

- 経営学会
- プロジェクトマネジメント学会

その他ご加入されている学会名をご記入ください。

日本計算機統計学会、医療情報学会4、教育システム情報学会、日本数学会
研究技術計画学会、情報社会学会、日本質的心理学会、応用統計学会
システム監査学会、失敗学会、日本社会情報学会2、AIS、IEEE3、ACM2
コンテンツクリエイション&コミュニケーション学会、日本 NPO 学会
日本キャリアデザイン学会、労使関係研究協会、日本セキュリティ・マネジメント学会
危機管理システム研究学会、化学工学会、シミュレーション学会、応用数理学会
ビジネスモデル学会、ヒューマンインタフェース学会、Decision Science Institute

問 4 情報システム学会の総会について、お尋ねします。

問 4.1 昨年 4 月、この学会の設立総会が開かれたことをご存知ですか。

- 知っている 41 知らない 12

問 4.2 昨年 4 月の総会に出席されましたか。

- 出席した 22 欠席した 32

問 4.3 昨年の総会について、あなたの評価をお知らせください。

- 評価できる 20 どちらでもない 22 評価できない 9

問 4.4 その理由を具体的にお知らせください。

・後半のご講演並びに懇親会は失礼しましたので、途中までですが、学会の設立趣旨については大変共鳴するところが多く、ツールとしての情報システム課題と、それを利用する根源的課題である人間というものに真正面から取り組んで行こうという姿勢に感銘しました。(利用者)

- ・ 設立総会だから、総会そのものも興味深かった、講演が面白かった。(ベンダー)
- ・ 研究者と実務家が協同して、情報システムについて検討する公式の場が得られたこと。北城会長の登場。わきあいあいの雰囲気を感じられたこと。(利用者)
- ・ 技術や機能面に重きを置いていた分野に新しい価値基準の評価が加わった(ベンダー)
- ・ 1) IT産業の実態を改善するためには、技術上の課題だけでなく、日本の社会的文化、責任組織体制、人間関係など、様々なテーマに取り組む必要がある。
- ・ 2) 産業側として、目先の利益にまい進する状況にあり、優秀なシステム開発現場のリーダがIT産業のあり方の議論や研究、育成指導などに参画させる余裕をまったく持たない状況にある。
- ・ 3) 日本には伝統的に職人を育ててきた経験があるが、舶来技術志向は依然として止まず、進んいた日本の状況を研究する文化を持たない。
- ・ などの状況の中、本当に「あらゆる側面から日本のIT産業の再生を推進する学会」に成り得るか。
- ・ 掛け声だけに終わる可能性が高く、どれだけ実践できるのか未知数。(ベンダー)
- ・ 倫理学者の講演に感銘を受けた。情報以外の方々(特に人間の研究)との交流の重要性を感じた。(教員)
- ・ 情報システム学会設立の趣旨に賛同、および今道先生の講演(ベンダー)
- ・ 北城会長と今道先生の講演がすばらしかったため。特に、今道先生の講演は印象的で、その後、ご著書をいくつか購読するきっかけになりました。(ユーザ)
- ・ 新しい視点に立った学会が設立されたこと(シンクタンク)
- ・ 今まで学術として立ち入ることのなかったITの利用側から見たITシステムのあり方の研究が期待され、ビジネスとITを結ぶ体系化が可能になることが期待できるため(教員)
- ・ 会長講演、今道先生講演(教員)
- ・ 今道先生の「情報と倫理」のお話が大変面白かった(ベンダー)
- ・ 情報システムを考える上で、方向が理解できる内容であった(ベンダー)

問 4.5 今年5月に第2回の総会を開く予定ですが、今後の総会のあり方について、あなたの期待やご要望をお知らせください。

- ・ 情報システムに関する国や地方自治体の政策(教員)
- ・ 会員を増やすことが一つの目標だと思いますので、メールや会員のブログ等で総会開催について積極的なアピールを行ったり、関係団体(企業、学校、マスコミなど)にも広報協力を依頼して参加者数を増やせるようにしてはどうでしょうか。このため総会自体を魅力あるものであることが前提で、参加者自身が来て良かったと思える充実した総会にして貰いたいと思います。理事の選任・ご挨拶、予決算説明など運営の透明性を確保することは極めて重要ですが、これは事前にわかりやすい印刷物を用意し配布すればよく、余り時間を割く必要はないと考えます。長文で申し訳ありません。(利用者)

- ・ メールで出来る範囲はメールでやる方が良いと思う。
顔を合わせる時は、メールでは出来ない意見の食い違う課題の議論をするようなものに限りたい
講演、パネルディスカッション等は充実したものにしたい (ベンダー)
- ・ 会員相互の意見交換が広くできるように。みな、意見をもっていてそれを言いたいはずですし、聞きたいと持っているから。熱心な討議ができる会場でありたい。(利用者)
- ・ 時間がある限り参加したいと思ってます。(ベンダー)
- ・ 上記、の三点に対して、取り組める体制作りについての構想していただきたい。(ベンダー)
- ・ 情報関係者が集まって議論するのでは、産学交流を重視するにしても他の学会と大差ありません。異分野交流こそがこの学会に期待するところです。(教員)
- ・ 基調講演に、すばらしい講師を招いてください。(ユーザ)
- ・ 情報システム学会が、他の学会とどのように異なっているのかがアピールされると良いと思います(シンクタンク)
- ・ 簡単な議決や、投票の委任はWEBでできるような仕組みが有効と考えます(教員)
- ・ 形式的なものでなく、実際の議論のできる場をよいのではないのでしょうか(コンサルタント)
- ・ 今道先生の講演がためになりました(教員)
- ・ 単に事務的な総会でなく、講演などを充実したい(教員)
- ・ 情報システム額の全体像と体系化に向けたフレームワークが可視化されて現在ワーキンググループで取り上げられている分野とこれからワーキンググループの立ち上げが期待される分野を確認できるような情報システム学大綱のようなものがほしいと思います(教員)
- ・ 会員または入会希望者が参加してみたいと考える魅力ある会合単なる事務報告だけでなく。そのPRを十分に(教員)
- ・ 総会に出る価値があると評価されるものであれば多くの会員の方が参加されると思います。総会の中に何らかの刺激あるグローバルレポートやパルザミーノレポートの解説や意義、日本の戦略などが含まれていると参加者の増加に繋がると思います(コンサルタント)
- ・ 現在 課題となっている点と今後の情報システムを考える上で参考となる原則等について討議する場があると良い(ベンダー)
- ・ パネルなど、学会のあり方に関する実質的でtwo-wayの検討を行ってほしい(教員)

問 5 情報システム学会の研究発表大会について、お尋ねします。

問 5.1 昨年 11 月の研究発表大会をご存知でしたか。

知っている 48 知らない 5

問 5.2 昨年の研究発表大会に出席されましたか。

出席した 20 欠席した 34

問 5.3 昨年の研究発表大会について、あなたの評価をお知らせください。

評価できる 21 どちらでもない 19 評価できない 6

問 5.4 その理由を具体的にお知らせください。

・急な所用があつて参加できなかったから。行かれた方からは良い大会だったと伺った。(ベンダー)

- ・ 分解ごとに熱心な討議があり、討議時間が足りないほどであった。参加者の期待が大きいことが、この大会で確認できた。(利用者)
- ・ 興味のあるテーマが多かった(ベンダー)
- ・ 従来学会でのイメージでは研究テーマと言ひ難い、思ひつきレベルのものもあつたと思う。
質的には低いと思われるが、これらを低評価せず、育てていく目でどこまで継続できるか、期待したい。(ベンダー)
- ・ 実践的な内容の論文が多かった。(自営)
- ・ 所用で欠席したが、資料を入手したため(IT監査)
- ・ 実務家の発表が多く、自分にとって参考になるものが多かつたため。(ユーザ)
- ・ 情報処理学会等とは異なつた、現場密着の内容であつたこと(シンクタンク)
- ・ 色々な取組を知ることができた(コンサルタント)
- ・ 予想外に多くの参加者があり、広い分野の方々が参加したこと(教員)
- ・ 今まで研究されていなかった人間とITの係わり合いの分野や、ネットワークコンピューティングと言う自律・分散・協調をうまくマネージしながら新しい情報のあり方や伝達のあり方を議論している論文が多く見受けられたから(教員)
- ・ いつも出ている学会とは大違ひで、アットホームな感じ、ディスカッションの多さにびっくりしました。ただしアットホームな感じは、逆に言ひところ、なじみにくく、入り込みにくい雰囲気でもありました(ベンダー)
- ・ 多くの広い視野からの論文発表が相次いだ。2006年1月23日号日経コンピュータ誌に成功モデルの例として紹介されたことは記憶に新しい。勿論、第一回ということもあり発表内容のテーマ一貫性の点で、今後、回を重ねながら洗練されていく余地は大いにあるが、それでもこれまでのIT系学会には無い切り口とテーマの設定は評価できるものであると確信している(コンサルタント)
- ・ 新しいことをやろうという空気があつた(教員)
- ・ 幅広く多様なテーマについて、産・学双方からのプレゼンテーションがあつた(ベンダー)
- ・ 初めての総会ということで若干質より量であつた感はあるが、企業の方々の発表はとても質の高いものが多かつた。ただ、どうしても学者の方の発表はのんびりとした進捗に感じるようなものであつたり、現場が見ていないが故の机上の空論、もしくは実業に反映できない内容が多かつたと感じる。

先を見ての研究と目先の実業のバランスがとれてくるともっとよい会になると感じた。(ベンダー)

- ・ 私の興味持てる論文の発表がなかった(農業)
- ・ 産業界からの発表がIT現場の実業の理解に役立つ。(ベンダー)

問 5.5 これからの研究大会について、あなたの期待やご要望をお知らせください。

- ・ 研究発表会は毎月開催するなど、分散実施して貰えれば参加しやすくなるのでお願いしたい。(利用者)
- ・ 討議時間をゆったりもてるように配慮したい。
討議記録もきちんと残したい。
次に、つながる議論や提案をもとめたい。(利用者)
- ・ 論文発表の意識が強く、盛りだくさんのことを説明しているが、発表
15分議論45分程度の研究会(?)でもOKという雰囲気に持って行ってほしい。
また、上記の三つの課題についての議論の出来る場がほしい。
1)については、無責任体制の。
3)については、日本の優秀な技術の育成、継承の実績と課題。
についてテーマに含めてほしい。
2)については、産業界が真剣に困っているのなら、「現場の一流技術者」を参加させるよう、事務局から産業界に圧力をかけてほしい。(ベンダー)
- ・ 継続して実践的な内容を充実して欲しい。(自営)
- ・ 関西での開催を希望(ユーザ)
- ・ 情報システムに関わる事件が多発しており、社会問題になっています。情報処理学会情報処理教育委員会では見解をホームページに掲載しました。しかし当事者から直接聞いて見解を示したものではありません。
同じような問題を繰り返さないために、その関係者(偽メールによる国会の混乱,ミス入力による証券取引の混乱,構造計算の改ざんなど)をお招きして、情報処理の観点ではなく、情報システムの観点から、根本問題を議論できるといいですね。(教員)
- ・ 情報システム学のあり方について、もう少し時間を取ったほうがよい。
産業界の期待する人材育成はとは?
学会と産業界とのかかわり方についての議論がほしい。(ベンダー)
- ・ 発表会場の席を十分に用意してください。また、トラック数を増やしてもよいので、1人の発表時間を多くし、質問時間も確保して欲しいです。(ユーザ)
- ・ 発表者の数、及び発表内容のバラエティーを増やして行くことが課題と思います(シンクタンク)
- ・ うるさい位の情報発信を期待いたします(教員)
- ・ セッションを小さくして、自分の聞きたい発表に移りやすくしてほしい(教員)

- ・ 形式張らないで参加できる和やかな雰囲気 (教員)
- ・ 発表資料を不参加者にも公開してほしい (利用者)
- ・ グローバルな方々の学会員加入や論文発表が望まれます。
今期はグローバルトラックを設けて、フラットに論考できる国際的視野を持ったものにしていきたくて願っております。特に中国、ベトナム、インド等のIT関係者の参加レベルが学会の価値を高める主要なファクターの一つと考えています (コンサルタント)
- ・ 発表者が増えてきたら年に二回程度に増やしても良いのではないか (ベンダー)
- ・ もっと論文の数を増やすためにオーガナイズドセッションを設けては？ (農業)
- ・ 発表と討議時間も十分ある運営が望ましいと考えます。 (ベンダー)
- ・ 情報システムに関する地に足のついたフィールドスタディがもっと多いと望ましいと考えています (教員)

問 6 情報システム学会の研究会についてお尋ねします。

問 6.1 情報システム学会では、会員の申請によって研究会を開くことができます (会則参照) が、このことをご存知ですか。

知っている 37 知らない 15

問 6.2 つぎの研究会のうち、ご存知のものをチェックしてください。

- 「人間の情報活動としての業務プロセスの可視化」研究会 29
- 「生圏情報システム」研究会 27
- 「シンビオティック情報システム」研究会 14

問 6.3 あなたは研究会に出席されたことがありますか？出席された研究会をチェックしてください。

- 「人間の情報活動としての業務プロセスの可視化」研究会
- 「生圏情報システム」研究会 6
- 「シンビオティック情報システム」研究会

問 6.4 あなたはどのようなテーマの研究会の設置を望まれますか。具体的にテーマをお知らせください。いくつでも結構です。

- ・ 情報セキュリティ、J-SOX対応 (ベンダー)
- ・ 情報システムの開発、運用現場と経営者のコミュニケーションの促進。 (利用者)

- 1) 現場がやりがいがあり、権限と責任を果たせる体制、組織のあり方。
- 3) 日本の優秀な技術の育成、継承の実績と課題
など(ベンダー)
- グローバル情報システム研究、情報システム比較文化研究(金融)
- 情報システムの開発、運用等において、標準歩掛を作成できるか(IT監査)
- 運用、オペレーション関係の研究会があれば、参加したいです。(ユーザ)
- ユーザ企業(特に中小企業)の運用部門、システム開発部門のあり方に関する研究会(ユーザ)
- 柔軟性のある情報システムの構築方法(シンクタンク)
- 情報システムが真の意味で利用者の生産性向上に役立っているか(シンクタンク)
- 情報システムに係わるリスクマネジメント(経営面や経済性を考慮した)(教員)
- 情報システムにかかわる人材の教育・育成の方法に関する研究会(教員)
- 社会環境における自然人の活動システムとIT環境でかもしだされる仮想世界の活動システムを融合するための知識の体系化、仮想世界の主体を明確にし実世界のエンティティのモデル化や関連付けの標準化などのテーマを持った研究(教員)
- CIOのあり方(ベンダー)
- IT人材の育成(ベンダー)
- 研究会とはいえないかもしれないが、会員相互の気持ちを通じ合える会合の場があることが望ましい(教員)
- 情報化投資の評価(利用者)
要求分析手法(利用者)
計画化(利用者)
見積手法(利用者)
システム開発生産性向上(利用者)
- 労働市場のグローバルフラット化環境にいかにか日本がイニシアチブを取りITを技術核としながら、グローバルな経済発展や繁栄に資することができるかを、日本の論理のみならず、海外の企業や政府のスタンスからも考察できるような場が欲しい。また、単なる机上の論理やマクロ経済分析などのシンクタンク系やビジネスコンサルができてしまうようなイメージ形成ではなく、現地、現場に立脚したレポートや研究ができればと切に願っている。日本IT企業のオフショアへの取り組みや戦略についてもオープンに議論すべきではないか(コンサルタント)
- 情報システム学の実業・社会分野での発展に役立つテーマが望ましい。
例 インターネットの進化他(ベンダー)
- ・IT投資マネジメント
・サービス型ソフトウェア企業の高収益化手法(ベンダー)

問7 今後、情報システム学会にどのような企画を望まれますか。該当するものをチェックしてください。いくつでも結構です。

<input type="checkbox"/> 社会への提言	2 6
<input type="checkbox"/> 論文の Web 発行	2 5
<input type="checkbox"/> 学会への要望や相談ができる窓口の設置	1 2
<input type="checkbox"/> 内外（政府、業界、企業、研究機関など）の情報システムに関する話題、 ニュースの情報発信	2 8
<input type="checkbox"/> 情報システム学の研究	3 2
<input type="checkbox"/> 情報システムに関するセミナー、講演会の開催	3 6
<input type="checkbox"/> 優れた情報システムの表彰	9
<input type="checkbox"/> 論文作成の相談ができる	6
<input type="checkbox"/> 文献（図書。論文など）紹介	1 4

その他，具体的に書いてください。

- ・ 産業界に媚びないで、産業の不備をどんどん指摘し、改善案を提案できる学会であってほしい。（ベンダー）
- ・ 学生、若手社員の教育プログラムの開発と推進（教員）
- ・ 企業側からの大学講師の推進（情報システムの現状や動向）（ベンダー）
- ・ 外国での関係論文の紹介 ICISなどへの参加報告（教員）
- ・ 産業界の要望を分析して、IT高度人材や即戦力人材の実態を解明すべき。ただし、経団連レポートなどはグローバル競争を意識した内容というよりも現場の即戦力化など短期的視点に立ちやすいため、普遍的（短期・中期・長期）な視点からの真にグローバル優位性を確立できる道を提言していくべきであると感じている。また、人とシステムの話や人材育成については、企業の人事部が啓発・啓蒙される必要性が高いため、今後、マスコミ戦略では、人事系担当者が読むようなJAMA人材教育誌やASTDでの発表、日経ビジネス系での記事掲載や投稿、HBR（ハーバードビジネスレビュー誌等）への記事掲載、TV東京WBSへのアピールなどを通して日本の学会としては、露出頻度を高めていく必要があるように感じている。学会の存在価値＝会員数×会員参画度で測られるのではないだろうか？そのためにもISSJ会員であることが産業界としてのステータスになっていくようにMETI、IPA、JISA、PMAJ、マスコミなどへの有機的働きかけが効果的だと感じている（コンサルタント）
- ・ 大学の教員、研究者には情報システム学会にどんな貢献ができるかを示唆するようなものが欲しい（教員）
- ・ 特定課題やトピックなどの解説書や普及書発刊を期待したい（不明）
- ・ 優れた情報システムの紹介（農業）

問 8 会員相互のコミュニケーションについて次の方法があります。それぞれの方法について、あなたはどのようなコミュニケーション内容を望まれますか。具体的に、お知らせください。

方 法

具体的なコミュニケーション内容

・文献、論文、活動案内等、静的な情報のライブラリとしてポータル活用。
どちらかといえば、双方向ではなく、静的な用途。(ユーザ)

- ・ 年間スケジュール、研究発表の内容、研究会の動向(利用者)
- ・ 掲示板的な情報の提示、
ダウンロード可能な資料の提供窓口(ベンダー)
- ・ 学会から、情報システムの健全な活用に関する情報、トラブルを避ける

情報を発信する。(利用者)

- ・ 常時参照できるWeb(自営)
- ・ 情報システムの失敗事例を紹介いただき、皆で失敗した原因を話し合い、

対策を提言する。(教員)

- ・ いろいろ希望はありますが、コスト(人手)がかかるでしょうから、

今回は要望を見送ります。(ユーザ)

Web

- ・ 学会からの情報提供(情報のアーカイブを主眼)(シンクタンク)
- ・ 外部や社会への情報発信(教員)
- ・ 公式な連絡、発表(教員)
- ・ 公開論文が多く掲載され、広く活用される場となればよい(教員)
- ・ 情報システム学会からの情報発信、研究テーマの報告、アンケート(ベンダー)
- ・ 情報(論文)閲覧、調査結果照会(利用者)ISSJからののお知らせ、イベント情報、発表

大会申し込みや論文投稿などを引き続き提示していけば良いと思う。基本は、

ISSJ→学会員&産業人、学術人、学生(院生含む)今後、国際学会化を考慮し、

基本的HPは英文やスペイン語、タイ語、中国語、ベトナム語など多国後表記が

実現すると良いと感じている(コンサルタント)

- ・ 各種の情報提供、特定課題の基礎的学習・講義・関連情報提(不明)
- ・ 掲示板機能を使用したコミュニケーションが可能となると望ましい(ベンダー)

メール

- ・活動告知、ホームページアップデート、コラムなど、学会からの

情報発信の場として。(ユーザ)

- 間近開催の研究会の開催案内、会員の投稿記事(利用者)
- プッシュ型のお知らせ
議決等の投票(ベンダー)
- メール配信なら随時読めるので便利だと思う(ベンダー)
- マガジン形式でトレンド解説・ニュースなどの紹介(ユーザ)
- 学会からのタイムリーな情報提供(シンクタンク)
- イベント案内、文献紹介、トピック別メーリングリストによる個別議論(教員)
- Webへのアクセスのプロンプト(教員)
- 研究課題ごとにMLを使って研究者相互の協調活動につながるとよい(教員)
- 個別の連絡(ベンダー)
- ニュースレター、ディスカッション(利用者)
- ISSJからの会員への個別度の高い連絡に用いることが基本。簡単なメルマガ発行

なども効果的(月1回でも)であり、ブログ連動とする(コンサルタント)

- 論文作成相談(不明)
- メールマガジンも良いと思います。(ベンダー)

- 双方向のイメージですが、併せて研究会活動等の議論や一次資料保管の

ツールとしても活用できると思います。(ユーザ)

- 学会事務局の活動日記、会員の情報システム徒然日記(利用者)
- Webでもメールでも、
意見をどしどし投稿できる場合は必要かと思います。(ベンダー)
- 共通テーマの議論(ベンダー)
- 情報や情報システムの最新的话题を掲載し、関心のある人が意見をのせていく。
ある程度まとまった意見になれば、本格的に討論し、学会としての提案

ブログ

にまとめていく。(利用者)

- 研究会テーマ毎のディスカッション(シンクタンク)
- 主要会員持ち回りによるカジュアルな情報発信(教員)
- テーマごとのブログはよいと思います。(コンサルタント)
- 非公式な意見発表の場(教員)
- 研究テーマごとに、開かれたブログで討議できるとよい。(教員)
- 研究テーマや特別なテーマを決めての意見交換(ベンダー)

- ・ 主に議論の場の提供としてブログを活用すると効果的。会員のみならず、非会員にも話題によっては広く門戸を開放していくのがポイントであると感じている (コン)
- ・ 研究会など、研究テーマごとの研究内容に関わる情報発信、コミュニケーションの場 (ベ)
- ・ あるテーマについて、提言・日記・コメント・質疑応答が出来ることが望ましい。(ベ)

問9 情報システムについてどのような関心をおもちでしょうか。
その他、ご意見がありましたら、なんでも結構ですからお知らせください。

- ・ 情報システムに関する政策 (教員)
- ・ 情報技術と人間・社会の関係 (教員)
- ・ 日本では、ユーザー (発注) 側、組織経営側の成熟度がまだまだ低いと言わざるを得ません。ITプロフェッショナルの育成は国の政策もありそれなりに前進していると思うのですが、CEO (orCEO候補者) レベルに対する教育カリキュラムの未熟さを強く感じています。この視点からの研究や啓蒙・教育機会を、提言・実施する役割を、当学会が担っていただけることを望みます。(ユーザ)
- ・ 内部統制とITガバナンス、人間行動とユビキタス社会 (利用者)
- ・ 社会システム基盤、デジタルデバイド問題 (ベンダー)
- ・ 情報システムを捉える視点はたくさんあると思います。
様々な視点から情報システムとその栄光、効果を捉えてみたいと思います。
"ぬくもり"を感じる情報システムの実現に向けて、何が必要か、意見を交換したい。(利用者)
- ・ まずは参加することとっております。それから意見を述べるべきかと (ベンダー)
- ・ 海外の焼き直しでなく、日本人が発想する技術は何か。(ベンダー)
- ・ SOAなどで既存のシステム資産を活用して、いかに早く情報システムを構築するかが論じられているが、20年前のメインフレーム時代のシステムづくりから、現代のUMLやJavaなどのオブジェクト指向になっても、オブジェクト指向技術のカプセル化や継承などの技術進歩はあっても、要件定義やテストなどにおいては本質的な進歩はなく、相変わらず労働集約型の作業が中心のように思われる。
ソフトウェアエンジニアリングの知的作業の生産性をいかに向上するか・・・研究成果があれば是非書いてみたい。(自営)
- ・ 学会が発する情報が少ない。会員間のコミュニケーションを活発にするための基本環境整備が不十分である。もっと活発な学会になることを期待する。(利用者)
- ・ 日本国内の情報システム学と、海外の情報システム学とでは、乖離があるような気がします。特に論文の査読フィードバックに関しては、日本の学会からのものと、海外のそれとでは、全く異なっています。

その結果、世界で認められる論文が日本で認められない、逆に、日本で認められる論文は世界では認められていない、というような現象が起きてしまう。

貴学会は新しく創設された学会ですので、日本における情報システム学の将来の発展を見据え、是非とも、世界標準を参考として、査読をお願いしたいと思います。(金融)

- =「SEは、残業が多く、その割りに収入も少なく、3K職場である」と若者はSEを敬遠しています。

情報システムの専門技術とは何かというコンセンサス作りが必要です。

現在は、大変さだけを強調している傾向があり、人それぞれバラバラの見解を述べているだけで、若いSEの魅力的な目標を示していないのではないのでしょうか。(教員)

- よく言えばベンダー任せ、実態はベンダー泣かせという商慣行が改善されITビジネスの商慣行の浸透が図られるようなルール化が業界全体で進めばよい。(コンサルタント)
- 情報産業業界で活躍しようとする人々へのガイドライン,または取り組み方に対する指導(ベンダー)
- 運用手法の確立、もしくは、運用の教科書のようなものができるといいです。開発については、いろいろな書籍がありますが、運用はITIL以外に数冊あるだけです。ITILも手法というより、まだ辞書(項目)レベルです。最近、東京証券取引所の作業ミスや、株の誤発注など、運用、オペレーションにかかわる問題がふえてきています。このように、運用の研究には、社会的ニーズがあります。情報システム学会として、開発とならび、運用も研究していくことを希望します。(ユーザ)
- 情報システムは既に十分な進展を遂げたと考えている方も多いと思います
が、ブロードバンド、モバイル等が実用的になって来たのはごく最近であり、まだまだ新しい姿の情報システムの登場が予感されます。
従来型の情報システムに関する話題と共に、未来の情報システムの姿を描き、そのために今何をしておくべきかについて議論できれば良いのではと考えます。(シンクタンク)
- 現代社会・経済の情報システムへの依存性増加と、脆弱性の増加。
ネットワーク型社会の脆弱性における情報システムリスクの定義。
事業継続マネジメントにおける情報システムリスクマネジメントのあり方。などなど(教員)
- 企業ガバナンスやITガバナンスなど組織の統制と情報の統制が話題になっていますが、情報は、組織や人の活動をコンピュータで数値化価値に変換されて情報伝達、情報蓄積、情報関連分析など情報システムで処理されています。しかしながら、活動の統制と情報の統制がうまく連携されていないところで予期せぬ不正や犯罪が行われているように推察されます。情報システム学では、このような実世界と仮想世界の間で発生する問題を顕在化させたり、体系化して、実世界で発生する課題や問題をより迅速に対応するためのシステム化提言ができるとういと思っています。(教員)
- 社会インフラとしての整備、経営への活用、利用者の拡大(簡単な使い勝手)(ベンダー)
- 会員が 情報システムについてどんなイメージを持っているか学会設立趣意書に対して、会員がどんな意見を持っているか。その改定案(教員)

- ・ 20年以上情報システムに関わってきています。昔は、業務をサポートする便利なものであった情報システムが、その扱う範囲が深く広くなることにより、人間がその業務の本質を忘れ（出来なくなり）、逆にシステムに使われるようになってるようになってると思います。便利に使っているときは良いのですが、ひとたびトラブルになったとき、その対応、復旧、復旧までの運用がボロボロになり、最悪な場合、人命に関わったりしています。本来、情報システムは、人の業務をサポートするものであり、道具であります。システムに任せていけないものまで、システム化してしまっているような気がし、このまま進めば、大変なトラブルが頻発するように思います。本来の目的にあったシステムのあり方を、考えていかなければいけないように強く思います。（散文、意味不明、お許しください）（ベンダー）
- ・ ISSJ設立趣意はすばらしい洞察に富んだものであり、まさに私を含め志ある方々が提唱していた趣旨と一致していたので喜んで加入させていただいた。しかし、日本のITを中心とした政府・産業界・学界の情報感度の低さは驚くべきものであると常日頃感じている。

グローバルでフラット、国籍が関係ないボーダレス人材競争が国際的なIT業界の底流で進行しているにも関わらず、日本のIT業界関係者、特に人事部をはじめ、事業部の方々でさえも危機意識が薄いと言わざるを得ない。例えば、新人研修やミドル研修でもたいてい月並みな他社が取り組んでいることや、トヨタ、キャノン、IBMといった優良企業の二番煎じ的なトレーニングや教育しか実現できていないのが現状である。また、インド、中国、ベトナム、韓国、台湾、東欧、イスラエル、南アフリカといった国々に存在しているハングリー精神に対抗する本質的な強さを兼ね備えないまま形式面が整備されてしまっている。唯我独尊的な強さではなく、フラットな競争環境の中でも普遍的に強い状態を確立していくべき絶好のタイミングであり、国際的優位性を確立する最後のチャンスが到来しているのではないかと思う。例えば、ハングリーな国々のエンジニアやPMと渡り合うような環境で教育ができないだろうか等の発想が出てきてもおかしくないはずである。ISSJは研究会活動等を通して、意欲的に提言していくべきであると考えている。また、ISSJには、提言するだけでなく、提言が実現するよう産官学に強力に働きかけていくエンジンとしての活動を期待している（コンサルタント）
- ・ 情報システムについての関心：
（主に企業が利用する情報システムについて）企画・構築・管理 / 運用はどのように進化していくのか？
また、そのためにどのような人材を教育機関・企業は育成すべきか？（ベンダー）
- ・ 本分野の技術者教育の企画を担当しています。「情報システム技術者に役立つスキルは何か」のヒントを期待しています（ベンダー）
- ・ 情報システムの有効に利用（活用）には、開発事業者、情報システム部門、業務主管部門（エンドユーザ）の役割分担と相互協力が必要となるが、特にエンドユーザのかかわり方が重要と考えられる。情報システムの企画・設計・製造・運用を検討する際に情報システム部門や開発事業者の視点からの取り組みが中心となることもあるので、エンドユーザの視点も意識した調査・研究を期待したい。勤務先が地方自治体で、この分野の調査・研究の蓄積が少ない分野であるので、地道な活動を通じて貢献を期待したい。また、自治体の現場からの調査・研究も期待したい。一律に民間と比較して遅れていること、単に民間で活用された考え方、技術やノウハウを導入すれば問題が解決する議論が少なくないと感じている。地方自治体と民間が置か

れた環境の違いに起因していることも考慮した実務と学術分野が融合した議論ができることを望みたい（不明）

- 情報システムが、どの様に進化して社会・産業分野に浸透し、人間系環境へどの様に影響するか、
又 情報システムの浸透による思考の変化と社会の変化並びに情報システムを発展させる人材育成等について関心があります。（ベンダー）
- ・ 要求工学
・ プロセスコンサルティング
・ IT投資マネジメント
・ IT企業自身の経営戦略（ベンダー）
- システム導入の失敗原因について掘り下げる研究が必要と感じています。（教員）

ありがとうございました。